

山陰放送

活動名	読み聞かせおよびお出かけ紙芝居
実施期間	令和 7 年 9 月～令和 8 年 3 月
実施回数	会場 3 回

【事業実施の成果・課題】

「読み聞かせ事業」に則った取り組みは、今回が初めてでしたし、弊社独自に取り組んでいた「お出かけ紙芝居」等も久々でしたので、以前のことを思い出しつつ、実施させていただきました。

BSS まつりでの読み聞かせは、ラジオステージで放送をしていない時間を使つての実施でした。不特定多数かつ出入りのある中での実施でしたので、どれだけの方々がこちらを向いてくださるか未知数でしたが、会場にステージのスケジュールを掲示したり、事前に呼びかけたりしましたし、読み聞かせが始まるときには拍子木を打ちながらステージに上がるなどしました。また、進行中にも作品の合間合間に、行き来する方々に呼びかけもしました。結果、読み聞かせをする側としても手ごたえを感じる人数の方々に集まっていただけだと実感。紙芝居はあらゆる世代に、「涙が出るほどいい話」は大人を中心にと、対象を考えていましたので、当日のステージ前の様子を見ながら、紙芝居を 8, 「涙が出るほどいい話」を 2 といった感じの配分となりました。担当 2 人でのトークや、会場の方々とのやり取りもまじえ、和やかな雰囲気の中での進行となりました。

幼稚園での読み聞かせについては、対象年齢が決まっていて、園児も読み聞かせに集中してくれますのでよりやりやすかったです。

いずれにしても、地元の放送局のいつものアナウンサーの声を通じて、より知っていただき、より親しみを持っていただけるとともに、BSS 山陰放送についても、同じことがいえるかと。

また、普段はスタジオの中でマイクに向かっているアナウンサーとしても、園児や、老若男女さまざま集まっていたいただいた会場の方々の表情や反応を見ながらの時間が、一つの大切な学びの場であると感じます。複数のアナウンサーで担当することが、おたがいの切磋琢磨にもつながっていると思います。

今後は、不特定多数の場での活動に加えて、園児のみならず、ある程度限られた年代を対象に、それに合わせた作品の読み聞かせも出来ると、アナウンサーとしての幅も広がってゆくことでしょう。

【事業担当者およびアナウンサー（講師・読み手）の感想】

- ・ステージ上のこちらに集中してくれている、見たり聴いたりしてくれているというのを感じられると、やはりうれしく、やりがいがあるものです。抑揚や、読み方の緩急、そしてなにより「間（ま）」が大切であるというのをあらためて実感しました。
- ・食い入るように紙芝居を観てくれる子どもがいて嬉しかったです。アナウンサーならば、抑揚や、声の高低などを使い、もっと上手く読めるようになりたいと思いました。フリートークを、より多く入れて会場を引き付ける手も試してみたいです。
- ・園児たちは読みきかせの時間、とても行儀よく聞いてくれました。反応も良く、面白いところでは大笑いしてくれて、嬉しかったです。園児たちのキラキラした目を見ていたら元気をもらえました。

【教諭・保育士・子どもたち・視聴者などの感想】

- ・BSS まつりでは、進行中にも、そして終わってからも、多くの拍手をいただきました。会場で感想をうかがうことはしませんでしたでしたが、個別に、良かったと言いに来てくださいたり、握手やサインを求められたりもしました。紙芝居のとき、園児ぐらいの子どもがじい〜っと見入ってくれたのがとても心に残っています。
- ・幼稚園児は、紙芝居の最後に「みんな、楽しかった？」と聞くと、全員が（園児 100%）「は〜〜い！」と元気よく手を上げてくれました。